

団体名：NPO 法人 さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人

事業・活動名：市民互助型在宅福祉サービス

助成金使途：通信費（会報郵送、Wi-Fi 通信費）、印刷製本費（会報作成）、備品費（非接触型検温計
+消毒噴射器セット、血中酸素濃度器、見守り用ノート PC）

◆事業内容

（対象）高齢者、子育て世代、障がい者、生活困窮者

（内容）住民参加とたすけあいの精神で、安心して暮らせる地域社会づくりを目指し活動を展開

- ・家事援助、病院の付き添いなどの生活支援
- ・オープンスペース「悠々」でイベントを模様しながら居場所づくり
- ・ガレージセール
- ・独居老人宅の PC での見守り

◆訪問レポート

住民参加と助け合い

松戸市新松戸で約 25 年。暮らしの中で手助けが必要な方に、利用者と協力者（担い手）が対等な関係を保ちながら、お互いさまの気持ちで支える活動をしています。最近増えてきた依頼は、病院の送迎や診察の付き添い。免許返納後の移動手段がない、医者のお話を一緒に聞いてくれる人がいない高齢者が地域に増えてきたことが分かります。行政の福祉サービスでは手が届かない部分も利用者の希望を良く聞き、お互いの信頼関係の中で支える助っ人の活動は、なくてはならない存在です。

次回に期待

今回、高齢独居の方に PC を使った見守りをはじめる計画で準備を進めていましたが、直前でご本人が体調不良となり実現できませんでした。「意欲のある方がいたら、チャレンジします」と代表の松下さん。ぜひ実現してほしいです。

心地よい居場所

2F のオープンスペース「悠々」を使った日替わりのサロンは、人と会いたい、話したい気持ちを大切に毎日開催。訪問した日は、午前中「きれいに歩こう」、午後「編むあむ」の日。参加している皆さんは旧知の仲と思うほど和気あいあいですが「知り合ったのは最近なのよ」と教えてくれました。写真撮影では、皆さん背中がピーンとして素敵です。

もっと多くの人に

助け合いを継続していくためにも「もっと多くの人にボランティアに参加してほしい。やりたいと思っても個人の意欲は弱いから、どこかに所属することもきっかけの第一歩。仕事をしていても、趣味に忙しい方でもちょっとした時間で参加できますよ」と松下さん。

顔を合わせ、交流し、困った時は助けてと言える助っ人の活動。これからも長く続いて欲しいです。

福祉委員 田端知江

